

図 2.2.30 祖父川 T ランク河川評価図 (1/3)

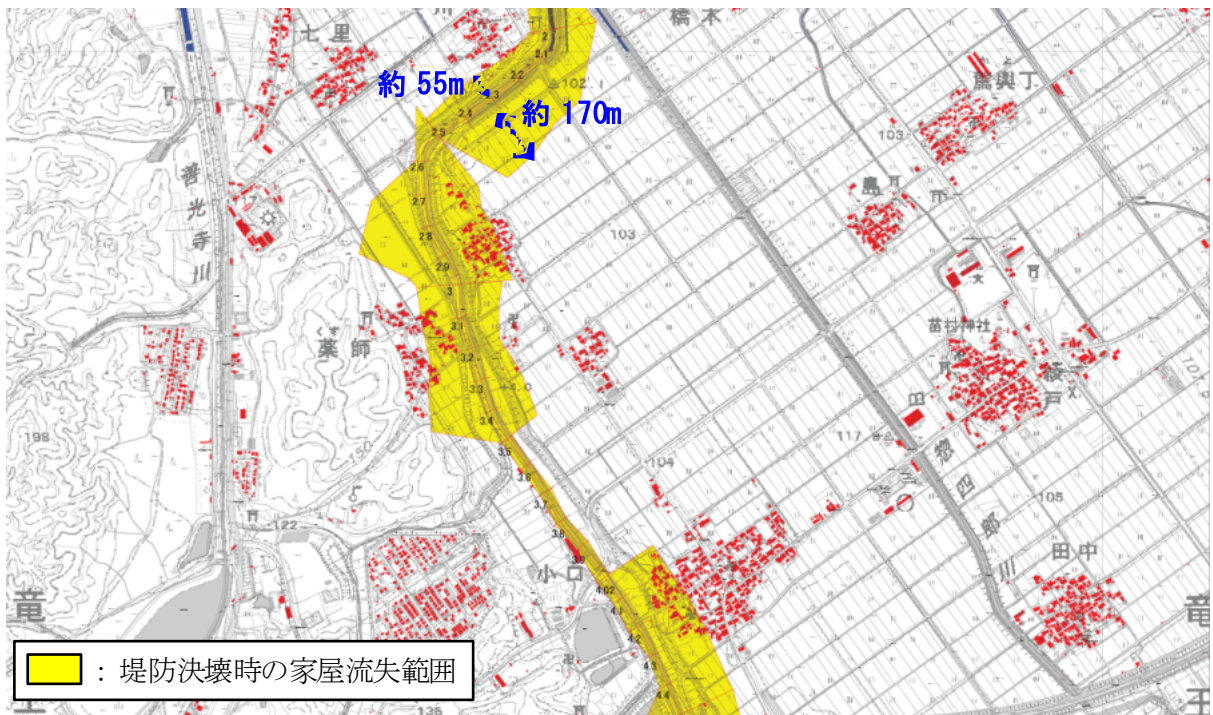


図 2.2.31 祖父川 T ランク河川評価図 (2/3)

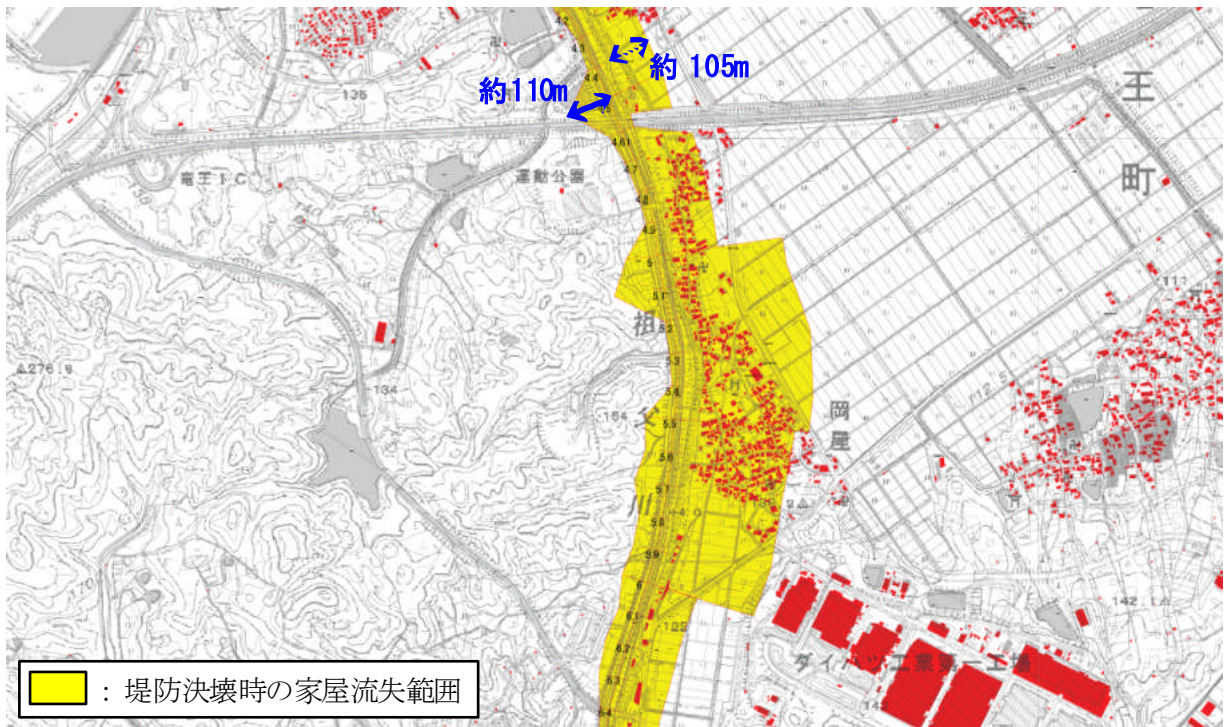


図 2. 2. 32 祖父川 T ランク河川評価図 (3/3)

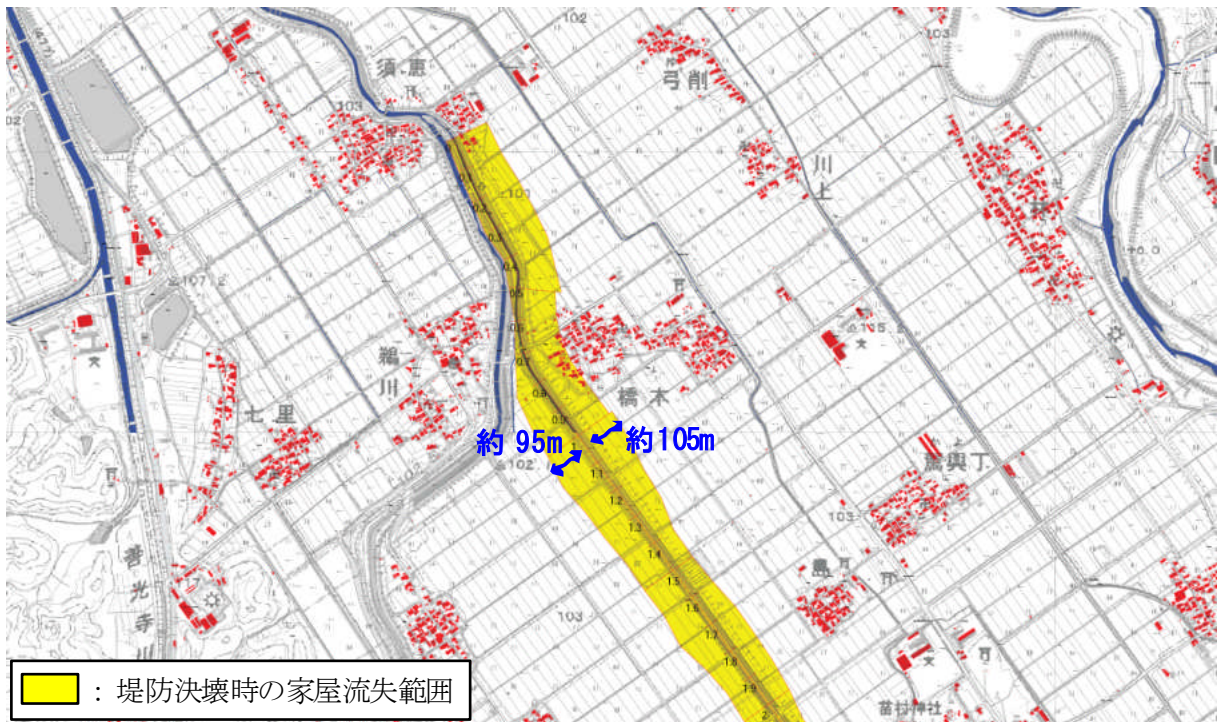


図 2. 2. 34 惣四郎川 T ランク河川評価図 (1/2)

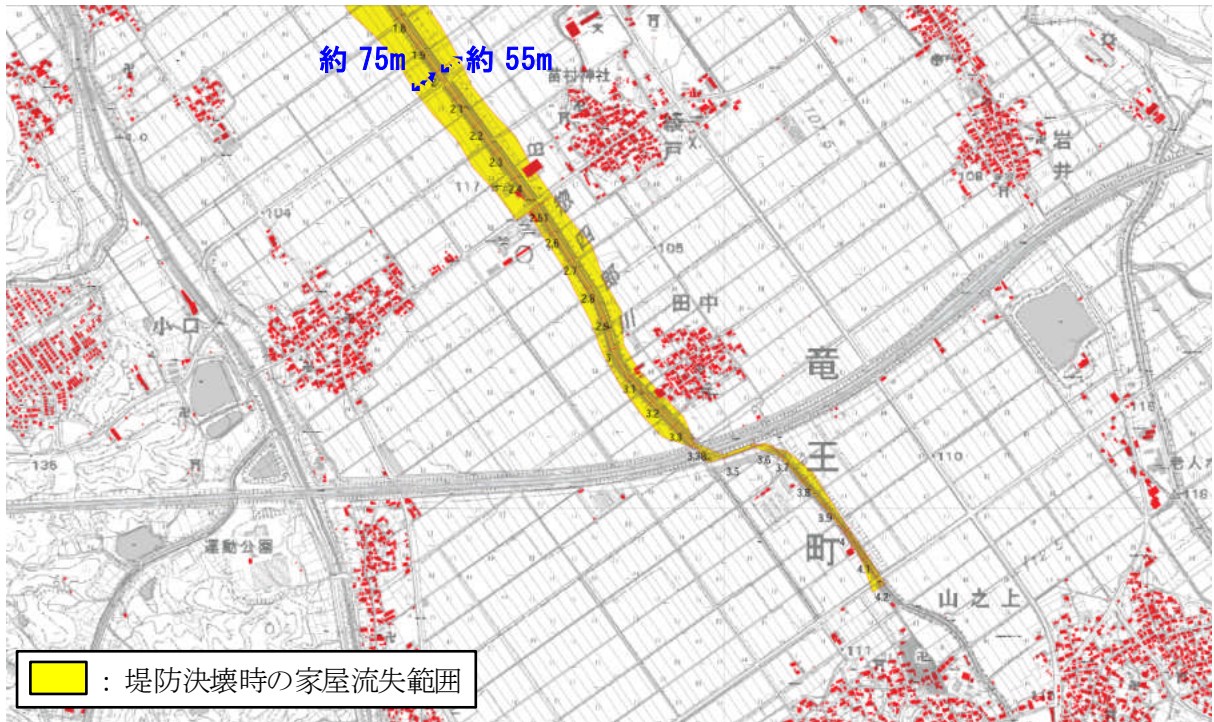


図 2. 2. 35 惣四郎川 T ランク河川評価図 (2/2)

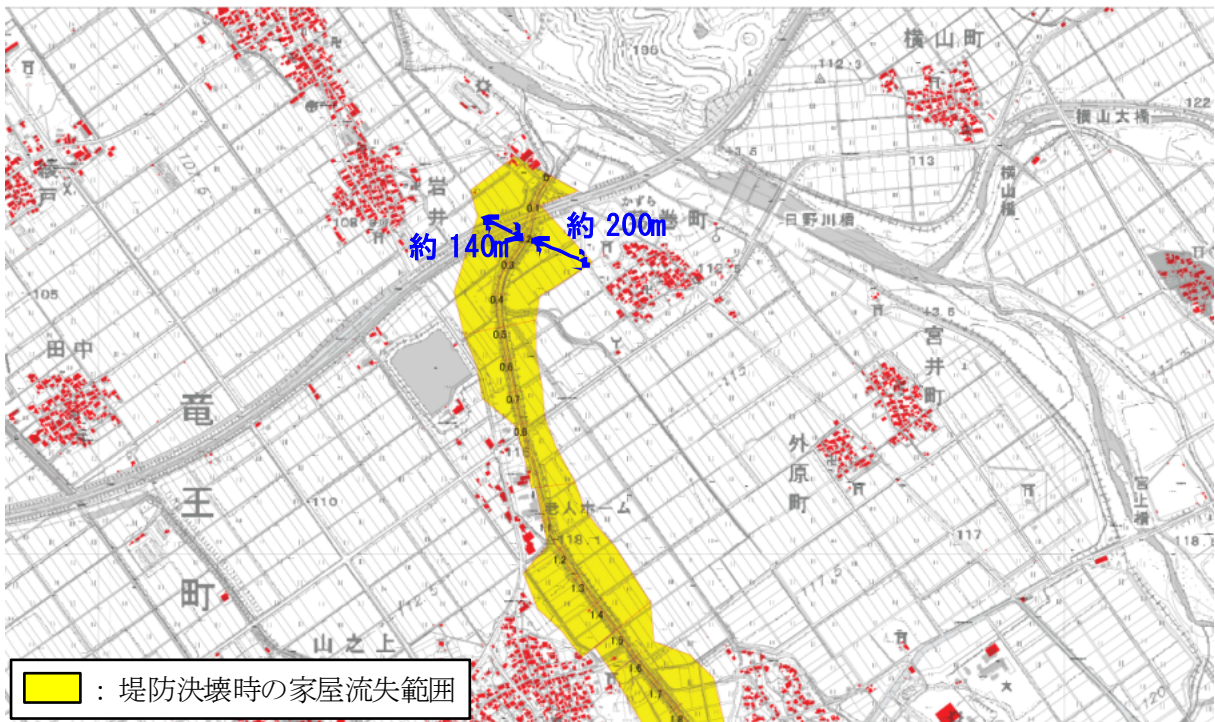


図 2. 2. 36 法教寺川 T ランク河川評価図

3. 現状と課題

本計画の目標は、県が定める流域治水の目標と同様に次の通りに定め、現状と課題および対策案について、「ながす」「ためる」「とどめる」「そなえる」の項目に分けて整理します。

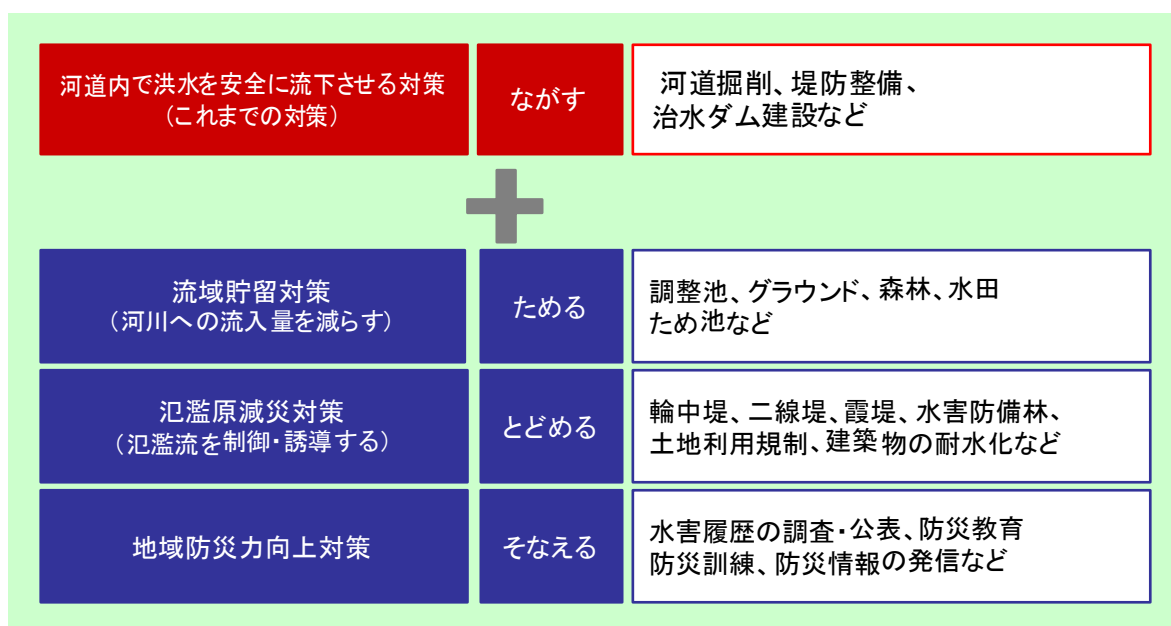


図 3.0.1 流域治水の目標と分類図

3.1 洪水を安全に「ながす」対策の現状と課題

① 河川整備の限界

- ・今後 20 年間の河川整備について記載された東近江圏域河川整備計画における日野川の河川改修区間は河口から善光寺川合流点の区間であり、2.2.5(4)に示すように日野川中流左岸地区への効果はあまり見込めません。

② 堤防決壊の影響

- ・2.2.5(5)で示すように、築堤河川の近傍の集落（西横関、西川、弓削、庄、林、川守、葛巻、須恵、鶴川、薬師、小口、岡屋、橋本、田中）では堤防決壊による家屋の流失のおそれがあります。

③ 河道の維持管理

- ・小規模な河川では堤外側（川側）の法面まで住民で草刈りをしている場合もあるが、日野川のような大きな河川では面積が大きいため、堤防天端まで（集落側）としている場合が多いようです。
- ・現在、川沿いの集落で年 1 回実施している草刈りについても、高齢化等の理由により継続が危ぶまれています。
- ・河床に生えている木を住民で切り倒すことはできても、太い木は持ち出せません。
- ・県で竹木の伐採を進めているが、竹の伐採は 3～5 年継続しなければすぐに元に戻ってしまいます。
- ・河川の草刈りは川沿いの集落だけで対応している場合が多く、川沿いの集落の大きな負担になっています。また、清流会のように住民・企業・行政など多様なメンバーでふるさとの川

をよみがえらせる活動もみられます。

3.2 流域で雨水を「ためる」対策の現状と課題

①ほ場のためる能力

- ・日野川沿川では、ほ場整備事業により、ほ場の大区画化および排水路の整備により、雨の流出が早くなったといわれています。

3.3 はん濫を一定の地域に「とどめる」対策の現状と課題

①霞堤

- ・日野川橋上流左岸の霞堤（日野川の佐久良川合流点付近の氾濫流や宮井町周辺の内水を日野川に戻す機能を有している）内に盛土され、霞堤の機能が妨げられています。
- ・法教寺川の日野川合流点付近の堤防は、葛巻町の浸水深が深くないように右岸側が低くなっています。

②水害に強い土地利用

- ・弓削や葛巻町等の集落では家屋の地盤をかさ上げすることにより、浸水から命や財産を守る工夫がされています。しかし、新たな建物でこのような工夫がなされていない場合がみられます。

3.4 水害に「そなえる」対策の現状と課題

①避難行動

- ・近年、大きな水害が起こっていないため、住民の水害に対するそなえる意識が低下しています。
- ・県は 2.1.2(2)で示すとおり、日野川において、水防団待機水位、はん濫注意水位、避難判断水位、はん濫危険水位を設定し、洪水予報を実施しており、市町が避難勧告等の情報発令を行う目安を設定しています。しかし、市町が具体的に避難勧告等を発令するタイミングや範囲等は明確にされていません。
- ・洪水時の避難について、タイミングやルート、要援護者の対応等、自らが判断でき、行動できる住民は多くありません。

②水防活動

- ・県は 2.1.2(2)で示すとおり、日野川および祖父川において、水防団待機水位、はん濫注意水位を設定しており、それぞれ水防団の待機と出動のタイミングを設定しています。